火を燃やし擴げよう

ねばり強い団結で 正しい道を闘いすすもう

たたかいぬいた一九六一年をあらためてふりかえると、実にきびしいたたかいの連続だった。だが、私たちにはけわしい道をふみしめて、正しくすすんできた仂く者の誇りとよろこびがある。そして、みんなでつきすすんできた一九六一年のあしあとのひとつひとつには、荒々しく私たちを襲った悪どい会社へのはげしい怒りと、強い憎しみがきざみこまれている。さらにそこには、あまりにも非道な攻撃の狂暴さがしめす資本のあせりをはっきりとよみとることができるし、その攻撃に屈せず、すさまじく抵抗しつづけたみんなの力に、未来をつくるあらたな確信と、明日へつながるゆたかな展望をみることができる。

ここに、一九六一年のたたかいの意義のふかさをたしかめ、はげしかったこの一年のたたかいの暦をたぐり、明日へ展ける扉をさぐってみることにしよう。

トップ交渉から中央交渉へ

あつせん案を無視し戦前にまさる職場のファッショ化を強行する会社に対し、二月いらいの山元団交の集約として六月から三池のトップ交渉が開始された。

しかしこの間、「差別・切り崩しはやっていない」と途方もないデタラメをいいつづけてきた会社に肚のそこからの怒りを抑えて、私たちは交渉にのぞんできたのに、八月二十七日の「過半数突破バレード」の社宅乗入れや、常前総攻撃にみるとおり、会社の態度が背信行為の連続だったことは周知のとおりである。

ついに山元トップ交渉は九月十三日に決裂し、九月十五日の炭労指令による二四ストを皮切りに、前例のない抜き打ちの「方別スト」の展開中である。

そしてこの間に炭労本部は三鉱連の協力で、三池の現状打開のための「中央交渉」を決意し、十一月二十三日に正式に本店社長に対して交渉を申入れたわけである。いらい期末手当交渉や無期限スト突入という重大な問題があったので二時見送られていた形だが、若林所長、つづいて宮川組合長が上京した。

三池としての態度はいうまでもなく「差別排除・組織介入停止・組合活動抑圧反対」の三項目が目標だが、会社側の態度は非常な難航で前途は明るくないと考えられる。

炭労の指導と三鉱連の協力によりこれをどう打開するかが、内外から注目されていることはもちろんのことである。

差別取扱いは、三池労組にだけ集中しているということでなく実際には、職制の支配権の復活と合理化強行がそのねらいであり、第二組合内部にも差別取扱いが激化しているのである。

私たちは、とにかくこのような不当な正常でない会社の態度を変えさせるために、あらゆる努力を傾注する決意をもち今後の中央交渉の成否にそなえなければならない。再言すれば、炭労全体の「場」におけるぎりぎりの結署が中央交渉の結果となり、今後の三池の闘方針を左右するからである。

政転闘争の成果について

炭労の方針に「原因追及」というのが、数年前から出されているし「炭鉱社会化」という目標は行動方針に明らかなところである。

周知のように首切り合理化の原因を追及して、独占本位の炭価切り下げ方式が油主炭産政策としてうきぼりにされ、炭労の政策転換闘争が大規模に推進されたわけであるが、率直にいってまだ全国民に対するアピールの段階だといえよう。

池田自民党内閣の土台が日本の独占資本であり、これを支え利用するのがアメリカの政策であることは、はじめから政転闘争の困難さを示している。

しかし池田内閣がどんなにホラを吹いても、現実の国民生活の実態をかくし切ることはできない。

一般国民を苦しめる物価高、災害増、世相の険悪化、不況のきざしなどが明らかな証人である。

したがって、劣悪な条件下の炭鉱労働者が展開する政転闘争は、一般国民、金勤労者に共通するし、必ず一致し得る要素をもつわけである。

三池闘争は、三池労働者の犠牲の中から、あまりにも独善的な反国民的な資本本位の政策に対する批判を相当広範囲に造出していることは事実だが、予算面にあらわれたかぎりでは、炭鉱労働者の要求にはほど遠いものである。

ここで私たちは、国民にアピールを行なうことに力点をおいた第一段階であることを理解し、つぎの段階としては国民諸階層との統一行動から共闘へ発展させる具体的な行動を確立しなければならないが、とくに地域における組織労働者の活動を拡大することが急務である。

現情における政転闘争の成果は、何が取れたかということよりも、反動コースを暴走する資本家政権に対決するための味方の行動をイヤでも追及しなければならないという、労働運動の「質」の発展としその確認にあるものとしなければならないはずである。

私たちの組織は、このような今後の運動に耐え抜くためにはまだ多くの欠陥をもっているが、何よりもねばりづよい「抵抗」を組み上げ、視野を広くしてたたかい抜くことが先決であり、政転闘争を改良主義だときめつけたり、成果は何かという性急さは克服すべきである。

一九六一年の闘いの暦

【一　月】

○きびしいたたかいの年をむかえ差別排除のたたかい、完全就職のたたかい、保安確保のたたかい、法廷内外のたたかい、の四つを闘争指標としてきめた。

○アメリカはキューバと対外関係を断絶すると発表（三日）

○呉島、興炭労合理化反対闘争にはいる。

○大地評主催「三池を守り春闘を闘いぬく総決起大会」開く（十五日徒林で）

○差別排除の要求と団交申入れをおこなう（二十三日）

○炭労大会を前にして、三池から北海道・九州・常磐炭労さん下各山にオルグ派けん。

○主婦会各支部役員改選おわる。

○失業と貧乏をなくす国民大行進団山崎彰行さん（四山）を団長に大牟田を出発（二十三日）

○差別・組織介入問題で三池職組に抗議申入れを行う（二十四日）

○春闘討論集会（二十八日）

○赤星議員さん＝第二組合・四山＝殉職（二十九日）

○中国総工会代表・団長ら六氏来組（三十日）

【二　月】

○中央公論社の嶋中社長宅を右翼の小森少年が襲い、夫人に重傷をおわせ丸山かねさんを刺殺した（一日）

○総評の三池現地調査団十三名が来組（二日）

○差別排除団交（三日）

○ソ連、人工衛星打ち上げに成功（三日）

○炭労第二十九回定期大会ひらく（五日から七日間）

○主婦会定期大会ひらく（五日）

○ソ連炭鉱代表ウラジチェコ団長ら四氏来組（十一日）

○大地評駅伝（東庄チーム優勝）

○荒尾市長、市議補選で地福、坂本両推せん候補惜敗（十二日）

○ソ連、金星へ衛星船を打ち上げる（十二日）

○ルムンバ・コンゴ前首相殺害される（十三日）

○社会党国会議員三池調査団六名来組（十六日）

○差別排除団交（十七日）

○製薬基本法案国会に上程される（十八日）

○野崎一さん＝三川＝殉職（二十三日）

○差別排除団交（二十三日）

○政転闘争陳情座り込み上京団三名上京（二十六日）

○炭労、政転闘争で廿四時間スト決行＝三池も突入＝（廿七日）

○永田教宣部長、甲斐議長、南場会長らをふくむ総評・炭労の三池闘争支援感謝、国際交流オルグ団羽田をたつ（二十八日）

○たたかう宇部、呉島の仲間への激励・交流ざかん。

【三　月】

○差別排除団交（一日）

○差別排除団交（三日）

○差別排除団交（四日）

○川上正月さん＝三川＝殉職（六日）

○第廿回社会党大会終る（六日）

○三池で保安団交申し入れる（七日）

○大地評主催・物価値上げ反対、春闘をたたかいぬく総決起大会（七日）

○上清炭鉱坑内火災で七一名死亡（九日）

○保安団交ひらく（十一日）

○ライシャワー駐日米大使任命される（十三日）

○保安団交（十四日）

○会社は「集会所の即時返還と放送施設の即時撤去」を申入れてきた（十六日）

○新島ミサイル基地闘争でオルグ地元民と右翼が衝突し、三三名負傷（十七日）

○保安団交（二十一日）

○総評で反共立法に抗議してデモをおこす（二十二日）

○春闘で公労協各組合に大量処分でる（二十五日）

○ソ連衛星船打上げる（廿五日）

○物価値上げ反対総決起大会＝延命体育館前で＝（二十六日）

○職制の組織介入に対する抗議行動の指示だされる（二十八日）

○久保清さん一周忌および就労後の殉職者合同慰霊祭・春闘をたたかいぬく総決起大会＝笹林で＝終了後延命公園に団結ハイキング（二日）

○第二組合に保安共闘の申入れをおこなう（三日）

○炭労大手二十四時間スト＝三池は職場大会＝（三日）

○与論島大牟田移住五十周年記念行事おこなわる（九日）

○大石福太郎さん＝四山＝殉職（十一日）

○会社、賃金問題で中労委にあっせんを申請、炭労条件つきであっせんに応ずる（十二日）

○張団長ら六氏の中国法律家代表来組（十一日）

○ガガーリン衛星地球を一周（十二日）

○ソ連作家代表アレキサンドル団長ら三氏来組（十三日）

○反カストロ軍、キューバに上陸二十日には全滅（十五日）

○働く婦人の中央集会ひらかれる＝三池から三名出席＝（十六日から）

○炭労企反闘争で二十四時間スト決行＝三池は保安点検強化＝（十七日）

○炭労賃闘で二四時間スト決行＝三池、大正は除く＝（十九日）

○中労委あっせん＝一万六〇〇円、月一五〇〇円＝でる（廿二日）

○永田教宣部長、甲斐議長、南場会長ら訪中・ソ代表団帰組（二十二日）

○アルジェリアの仏軍反乱、フランス本国一千万のゼネスト（二十二日）

○炭労、中労委あっせんを受諾、スト解除（二十四日）

○三菱、北炭神威、雄別、日炭高松、大正、杵島、日鉄二瀬など企反闘争にはいる。

○第二組合、保安共闘に拒否の回答（二十八日）

○メーデー前夜祭（廿八日から）

○製薬基本法案、自民党、民社党だけの出席で成立（二十九日）

○高松、杵島などへの激励交流オルグざかん。

【五　月】

○第三十二回メーデー

○カストロ首相が社会主義共和国宣言（一日）

○シェパード少佐アメリカの人間ロケットで回収（五日）

○高松で「安保体制打破・合理化反対・生活と権利を守る」二万人の大集会ひらかる（七日）

○炭労企反闘争などで一時間五十分時限スト＝三池はのぞく＝決行（八日）

○第二十二回ソ連共産党大会はじまる（十七日から）

○会社の一方的な組織介入撤回の本所からの三川配転きめる。

○参議院で政暴法審議に入る（二十日）

○政転推進・政暴法粉砕・学力テスト反対・差別反対大集会＝笹林で（二十二日）

○第一次政転上京団＝三池から二五名参加＝出発（二十三日）

○学力テスト反対闘争（二十六日）

○会社三十一名の不当解雇処分申し入れる（三十一日）

○田隈政勝さん＝四山・第二組合＝殉職（三十一日）

○第二組合幹部スト権売渡し協定を結ぶ（三十一日）

【十一月】

○方別スト＝坑内二番方＝決行（二日）

○方別スト＝坑内三番方＝決行（二日）

○日米合同経済協力委員会暗根でひらく（二日）

○三鉱連組織対策委員会来組（三日）

○三池団結大運動会＝記念グラウンドで（五日）

○差別・切りくずし・不当解雇に反対、抗議する座り込みをはじめる（六日から）

○不当解雇処分についての団交（八日）

○池田＝朴会談、日韓会談ひらかれる（十二日）

○島津みどりさん＝殉職（十三日）

○益田蕃行さん＝三川・第二組合＝殉職（十四日）

○川部政勝さん＝三川・第二組合＝殉職（十六日）

○方別スト＝坑内二番方＝決行（十六日）

○方別スト＝坑内三番方＝決行（十六日）

○炭労中闘委員会をひらき三池の不当処分反対闘争方針（実力および法廷闘争でたたかうこと）・差別排除闘争（中央交渉の実施など）についての指令を出す（二十二日）

○炭労、三井鉱山に三池の差別排除についての中央交渉を申し入れる（二十二日）

○第二次政転上京団（三池から十名）出発（二十五日）

○方別スト＝三番方＝決行（二十四日）

○不当解雇処分についての団交（二十四日）

○会社、離職者二六名をふくみ三二名および社宅明け渡し時間五十分時限スト＝三池はのぞく＝（二十六日）

○差別排除交渉、トップ交渉にうつす。

○小児マヒ全国にひろがる。

【七　月】

○九炭労、政転要求・合理化反対三池の保安要求貫徹で二四時間スト＝三池は職場大会（一日）

○鹿国政変、朴議長にかわる。（三日）

○中村長市さん＝三川・第二組合＝殉職（七日）

○第二原水協発足（十三日）

○梅野芳弘さん＝宮浦・第二組合殉職（十三日）

○平和行進出発前夜祭（十四日）

○炭労期末闘争で無期限スト突入二四、五〇〇円妥結、スト中止三池の格差問題は中労委あっせんにより二〇、〇〇〇円で解決スト解除（十五日）

○平和行進大牟田出発（十五日）

○池田内閣改造（十八日）

○工藤光さん＝三川＝殉職（二十日）

○釘崎一郎さん＝三川・第二組合＝殉職（二十三日）

○福岡市で「合理化反対・国民の生活と権利を守り・政策変更」と松川の無罪を要求する全九州、山口総決起大会」。三池からも四五〇名が参加。（二十三日）

○第三回大牟田地区母親大会（二十三日）

○第八回共産党大会ひらかる。（二十五日から）

○第三回福岡県母親大会（卅日）

【八　月】

○高松・杵島闘争で炭労大手＝三池はのぞく＝一時間五十分時限スト（二日）

○総評第十七回定期大会（三日から）

○ソ連テトフ少佐宇宙旅行に成功（六日）

○松川事件全員無罪判決（八日）

○杵島・高松闘争で炭労＝三池をのぞく＝二十四時間スト。杵島・旅解点に達し中止（九日）

○原水爆禁止世界大会（九日）

○東独で西ベルリン立入禁止。ベルリン危機深刻化（十三日）

○ミコヤン、ソ連副首相訪日（十四日）

○炭労臨時大会＝杵島闘争で＝ひらく。（十七日から）

○日本母親大会ひらく。（二十日から）

○山元トップ交渉の会社最終回答でる。（二十四日）

○炭労企反闘争などで一時間五十分時限スト＝三池はのぞく＝決行（二十四日）

○会社、離職者二六名および社宅明け渡し（二十七日）

○会社、離職者二六名をふくみ三二名とおよび社宅明け渡し